

編 輯 後 記

梅雨が萌さすかと思われる曇天の今日やうやく編輯を終えることができた。最少年1回発行しようと考えていた衛研年報が3ヶ年分たまってしまったのであるから骨が折れた。研究業績も少なく恥かしい次第であるが仕事に追われてその方面へ手を伸ばせなかったということも事実である。県民の健康にして明るい生活ということを考えると、真に忸怩たるものがあるが、しかし大いなる理解が天降り、充分活躍のできる秋がやって来るかも知れない。

編輯にあたって、全国地方衛生研究所のうちで秋田衛研の置かもっている位置についても述べたかったが、その機会でないとやめた。また昭和35年度から経済企画庁などの要請によって雄物川の河川水を検査し、資料も山積しているのであるが、調査が未だ完了していないので、これも取り止めた。いずれ機会があるものと思っている。

終に当衛研の職員がよく職務を理解し、骨肉を惜まず己が仕事に忠実なことに対して感謝したい。

おわり

正 誤 表

誤			正
頁	行		
12		d 寄生虫卵査検成績	d 寄生虫卵検査成績
16		(3) 化学検査(科)の業務並びは業績	(3) 化学検査(科)の業務並びに業績
"	右 6	基く	基づく
"	右 10	基き	基つき
17	左 10	基ずき	基つき
"	左 24	基ずく	基づく
22	左 8	湿泉水分折機関	温泉水分析機関
"	右 5	化学検査係2名	化学検査係3名
25	右 2	消略	省畧
35	4	スツリヌスE型	ボツリヌスE型
44	2	秋田県厚生研究所	秋田県衛生研究所